戦争の恐しさ、いのちの大切さ

戦地で失われた安曇野の命

豊科郷土博物館で「安曇野の戦争」展が開催中

昭和７年の兵役検査時の記念写真

安曇野の人々が向かった戦地やその記録などが並ぶ

企画展では、戦死者一人一人の人生の一端を紹介しています。

戦死年齢の多くは22歳から24歳

南安曇郡誌や明科町史によると、安曇野市域からの戦病死者数は、アメリカ軍の反撃が始まった昭和19・20年の2年間で1200人を超えます。

「戦没者遺影集」（堀金村遺族会）に記載のある戦死者の生年月日を見ると、およそ3割弱を22歳から24歳の若者が占めています。特に、大正11年度に生まれた男子の戦死者は、同年度小学校卒業生男子の3割以上となりました。

夢と希望、大いなる可能性を秘めた若者たちが、国や郷土、家族などを守るため、安曇野の地から戦地へと向かいました。

帰ってきた日章旗

企画展では、2枚の日章旗が展示されています。いずれも安曇野から戦地へ向かった若者に贈られたもので、「祈武運長久」（ぶうんちょうきゅう）、「義勇奉公」など、首長をはじめさまざまな人の寄せ書きが記されています。

一つは激戦地ニューギニアで戦死した本田卓郎さんのもの、もう一つは、フィリピンから帰還し、平成元年に亡くなった青柳万亀寿（まきとし）さんのものです。

展示した原明芳館長は、「多くの命の上に今の平和がある。この日章旗を見て、持ち主の人生や時代背景を少しでも感じてもらえたら」と話します。

地域で記憶する

企画展では、戦死者の死亡年月日や戦死地が展示されています。戦死者は、現地で火葬され、遺骨となって帰国し、遺族に抱かれて帰郷しました。

郷里では、学校の校庭などで町村葬が営まれ、遺族は主賓として参列しました。そして、戦争があったこと、戦死者を忘れないと誓いを込めた石碑を、多くの人の目に止まる道や神社の境内に建てました。

市内にも、数多く慰霊碑が建てられています。戦争を刻んだ石碑は、失われた命を忘れず、平和の大切さを未来に伝える歴史遺産です。現在に残されている資料や石碑から、身近な平和を考えてみてはいかがでしょうか。

豊科郷土博物館「安曇野の戦争」展は、9月19日（月）まで開催中です。

問豊科郷土博物館 ☎72・5672 ID 64735

生徒が感じた平和の尊さ

市内の中学生13人が8月5日と6日の両日、広島市を訪れ、平和学習を行いました。

生徒たちは初日、原爆ドームや平和記念資料館を見学し、被爆者の遺品や被爆の惨状を記録した多くの資料と向き合いました。

翌日、生徒たちは平和記念式典に参列。平和を願う国内外からの数々のメッセージを聞き、慰霊碑に平和を誓いました。また、被爆体験の講話では、被爆された方の生の声を、時折メモを取りながら真剣に聞き入っていました。

参加した飯嶌奏帆（かなほ）さん（豊科北中3年）は、「平和記念式典に参加できたことは、とても貴重な経験。被爆された方の話を聞き、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の尊さを強く感じた。この経験を、家族や友人など多くの人に伝えたい」と話しました。

ウクライナ駐日大使

安曇野市に来訪

ウクライナ国旗や国花であるヒマワリでコルスンスキー大使を出迎えました。

ウクライナのセルギー・コルスンスキー駐日大使が７月17日、安曇野市役所を訪れ、懇談しました。

ウクライナへの連帯を表明

コルスンスキー大使の安曇野市来訪は、松本市の信州大学での講演の翌日に行われ、当日は市、市議会、国際交流団体の関係者13人が出席しました。大使からウクライナ国内の状況や平和への願いについて話を聞き、約1時間にわたり懇談を行いました。

太田市長はあいさつで、「子どもを含めた沢山の尊い命が失われ、生活を破壊され、ウクライナ国民は恐怖の下で生きることを強いられている。苦難の中にあるウクライナ国民をそれぞれの立場で支援することが重要」と述べ、ウクライナへの連帯を表明しました。

今起きていることはテロそのもの

コルスンスキー大使は、「ウクライナに今起きていることはテロそのものです。毎日のようにテロ事件が起きています」と軍事侵攻の状況を述べました。そして、日々、命が奪われていく状況については、「実は日本で、こういう風になってしまったことの原因は何ですか、原因もなく人を殺すことはないでしょうと聞かれます。しかし、実際は全く理由なく人は人を殺す、殺せるから殺すというのが現状です。毎日のように罪のない子どもを含む民間人が殺されています。また、毎日のように罪のない人が口にするのをためらうようなひどい傷を負っています」と実情を話しました。

避難者にできる範囲でサポートを

懇談会の出席者からは「安曇野市に避難民が来た場合、市民にできることはあるか」との質問が寄せられました。質問に対し、コルスンスキー大使は、「例えば、住宅、子どもの教育、医療保険、日本語を習う機会、可能であれば就労の機会」などを挙げながら、「できる範囲でサポートしてもらえればありがたい」と返答しました。

市では、避難民の要請があった場合は、受け入れができるよう、県と連携し取り組む方針です。

「ウクライナ人道危機救援金」の募金箱は、安曇野市役所、各支所の窓口に令和5年3月31日（金）まで設置しています。

平和記念公園で慰霊碑に向かって祈りをささげる生徒たち。奥には原爆ドームが見えます。

関連情報

市文書館では、安曇野市平和都市宣言10周年記念企画展を開催します。過去に広島平和記念式典に参加した生徒の声や、平和都市宣言制定に向けた市民の歩み、宣言文に込められた思いを紹介します。詳細は20ページ参照。